



## 古墳を作るのに、どれくらいの人が必要だったの

### 古墳の形や大きさ、有力者の力によってちがう

日本では3世紀から8世紀にかけて、王や豪族が死ぬと、大きな墓（古墳）が作られました。小山のように土を盛り上げたり、自然の丘を利用したりした、古墳には、円墳や方墳もありますが、規模の大きいものは、前方後円墳です。

この古墳の形や大きさ、それにたずさわった人の数などは、その王の力の差や地域や時代によってまちまちです。

ここで日本でも最大級のもので、例として取り上げてみましょう。

神戸市垂水区に、「五色塚古墳」といわれる大きな古墳があります。長さは約200メートル、高さは約20メートルで、土は3段に盛られていますが、全体は250万個の玉石でおおわれています。ひとつの石の直径は10センチメートルくらいです。

### 「五色塚古墳」では25万人くらい

古墳をきずくのもたいへんだったことですが、そのうえに、この玉石を遠くから運んできてすえつけるのにも、たいへんな労力が必要だったと思います。

この「五色塚古墳」の玉石を一人が10個運んでも、25万人がたずさわったことになります。古墳作りには、すぐれた土木技術をもった人が必ず必要です。また、作業にたずさわる人たちの食事や、身のまわりの世話をする人も必要です。

こうしてみると、よほどの財力がある人しか、古墳は作れないことがわかります。

（監修・保岡 孝之）

